

## 第 14 回日本検査血液学会学術集会

坂 東 史 郎\*

第 14 回日本検査血液学会学術集会は平成 25 年 7 月 27 日(土)~28 日(日)の 2 日間、福武勝幸大会長(東京医科大学臨床検査医学講座教授)、三村邦裕副大会長(千葉科学大学大学院危機管理学研究科教授)のもと、東京都新宿区の京王プラザホテルで開催された。真夏の一番暑い時季ではあったが、一日中、涼しいホテルの中で暑さを忘れて勉学に勤しむことができたことは、大会企画に携わった運営委員の方々に参加者全員が感謝したことでしょう。学術集会の立て看板写真が無いので、会場のホテル 47 階「機器展示会場」から見た東京都庁のツインタワーを掲載します。なお、近すぎて全景が写りませんでした。

大会のテーマは「血液検査を臨床に活かす」。患者さんの状態を速く正確に読み、臨床医と協力して診療に貢献する血液検査を目指すとしている。内容では、特別講演が 2 題、教育講演が 4 題、大会長講演に加えシンポジウムが 3 セッション、ワークショップ、テクニカルセミナー、ケースカンファレンス、グループミーティングが各 1 セッション、一般演題は 129 題であった。

なお、今回は密度の高い学術集会を目的に、新企画として早朝 8 時開始のモーニングセミナー、情報交換会前のイブニングセミナーが、通年のランチョンセミナーに加えて開催された。ランチョンセミナーはすべてが平行して行われるため、2 日間で 2 回しか受講できない。しかし、今回はモーニングセミナーとイブニングセミナーで、より多くの受講が可能となった。ところが、イブニン

グセミナー(形態のエキスパートを目指して“骨髄像の見方の基本、そしてアプローチの方法”)の受講希望者が殺到し会場が満杯、おまけにセミナーで使用された資料も不足し、会場に入れない受講希望者の全員に配布することもできなかった。自分もあふれた 1 人であったが、改めて熱心な方々の多さに驚かされた。



学術大会場の京王プラザホテル 47 階「機器展示会場」から見た東京都庁のツインタワー

---

\*公立大学法人 愛媛県立医療技術大学 保健科学部臨床検査学科生体情報学講座 sbandoh@epu.ac.jp

特別講演1の「福島原発事故と放射線健康リスク管理」や特別講演2の「iPS細胞を用いた血液疾患治療への新しい戦略」はともにハイレベルな講演であったが、広い会場がいっぱいになるくらい受講者で、注目度も高い事柄であることが窺えた。特に、特別講演2は、山中伸弥教授のノーベル賞受賞以来、どこの学会に行ってもiPS細胞に関する特別講演が企画され、会場がいっぱいの受講者で埋まってしまう状況で、今回も同様であった。このiPS細胞に関する特別講演は、同じ内容の講演が全くなく、幅広い研究が数多くの研究者によって行われ、多数のすばらしい成果が生まれてきている印象が強く残った。

教育講演やシンポジウムでは、毎年、特定の疾患についての診断・治療における臨床と検査などのような、疾患に則した血液検査のデータを解析していくものが多く企画されていたが、今回は大会のテーマに沿って、どうすれば血液検査のデータが診療に活かされるかに焦点を当てたシンポジウムも企画された。血液検査室からどのようにして情報発信を行っているのか、またそれを臨床医がどのように利用しているのかなどについて、血液検査室側からの発表がなされた。今後の血液検査室のあり方や、臨床医との関わり合いについての討論も活発に行われ、大変有意義なものであった。

それ以外にも、数多くのテクニカルセミナーが開催された。特に、形態診断のためのケースカンファレンスでは、準備された標本を顕微鏡で観察し、自分なりの診断をする。症例提示者が診断に至る経緯を解説し、コメンテーターが標本を観察する要点や鑑別すべき疾患など、実際のルーチン検査に沿ったコメントをする。このセッションは参加申込者も多く毎年盛会で、少しでも新しい技術や知識を習得しようとする気迫がみなぎっている。

4年前(2010年)から、新たに企画されたのが卒前教育である。2年連続で行われた後、昨年(2012年)は企画されなかったが、今年になって復活した。シンポジウム「血液検査学における臨床検査技師の卒前・卒後教育」では、1. 学校教育におけるカリキュラムや実習の紹介など、種々の問題点も含めての解説。2. 臨地実習における学生の受け入れ側(病院等の施設)からの実習内容や問題点などの解説。3. 学校を卒業して就職したときの新人教育の仕方や問題点。4. 生涯教育の目標としての認定試験、あるいは個人の評価における日本検査血液学会が行っている認定血液検査技師や骨髄検査技師の役割。と卒前・卒後教育について順にそれぞれの専門家が解説した。特に、卒後教育あるいは生涯教育としての日本検査血液学会の役割や重要性に関しては、十分にその役割を果たしてきている。しかし、卒前教育の面から考えると、あまり利用されていないのではないかと考えられる。

卒前教育のあり方や問題点などについて、次世代を担う臨床検査技師を育てるという観点から、特に血液検査の標準化の普及などは、卒前教育も含めた教育体制が必要になってくると思われ、教育施設側からの問題提起など、地道に努力していく必要性を感じた。

第15回日本検査血液学会学術集会は、平成26年7月20日(日)～21日(月・祝)に張替秀郎大会長(東北大学大学院医学系研究科血液・免疫病学分野教授)、大沼沖雄副大会長(三菱化学メディエンスラボソリューションセンター東日本推進部)のもと、仙台国際センター(宮城県仙台市)で開催されます。臨床検査学に携わる教員・学生の皆さん、少しでも卒前・卒後教育に一貫性を持たせられるような大会となるよう奮っての参加をお願いします。